

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院  
大阪芸術大学附属金剛幼稚園

## 1-1. 教育方針

### ○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張っただけの達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

## 1-2. 教育目標

### ○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上をめざすとともに、地域の幼稚園としての役割と使命を持つ。
  - ①定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
  - ②地域連携や近隣小学校との連携を図り、子どもの繋がりを大切にする。
  - ③年度末に自己評価をおこなう。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
  - ①園児の健康観察及び予防に努める
  - ②園全体における感染症対策の徹底
- 3 地域の子育て支援拠点の充実
  - ・おやこ教室のPRに努め、開催日程や内容を地域に発信する
  - ・園庭開放に来た保護者への相談・支援を行う

### 3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	その日の出来事、子どものことを毎日話し合い、教員間で意見を出し合い、改善策を見出し実践した。
2 ①園児の健康観察	A	毎日の検温実施や登園時に検温表を提出・視診を行い、日々の健康観察を実施している。
②感染症対策	A	職員、園児、保護者のマスク着用。 園の入り口、職員室、くつ箱前、トイレ、保育室等に消毒液の設置。 食事時は園児間にパーテーションを設置。 清掃の方により階段の手すり、扉等の随時消毒。 手洗いの推進。 保育後、遊具や玩具、机やいす等の消毒。 必要に応じて、園だより・ホームページでの啓発を行う。
3 地域との連携と子育て支援の充実	B	未就園児対象のおやこ教室・園庭開放を開催し、参加者と園児・保育者との交流もできるようにした。 近隣地域の交流会や会議に参加し情報交換に努めた。

### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検・自己評価の実施で保育の振り返りができた。</li> <li>同一地区内における情報交換などに参加するように努めた。</li> <li>コロナの感染状況が日々変わる中、様々な政策に対応しながらできることを模索し、状況にあわせた行事を行うなど子ども達も色々な経験ができた。</li> <li>保護者が参観できる行事は、人数制限や感染対策の協力を求め、できる範囲で行った。</li> <li>本園は保護者が直接送迎するので、教員と保護者が話をしやすい環境にある。その特色を活かし登降園時に園児の様子を保護者に伝えるよう心がけ、保護者の安心につながるように努めた。</li> <li>クラスだよりの発行や、ホームページの掲載により行事や園生活の様子を知らせるようにした。</li> </ul>

#### ◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

## 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月避難訓練を行っているが、緊急時における対処方法を教職員全員がさらに実施できるよう、共通認識を持つ努力をする。AEDの使用方法を定期的を確認する。</li> <li>園庭の環境整備の点検をしっかりと行う。</li> </ul>
保護者同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放の回数を増やし保護者同士の交流ができるような場を計画していきたい。</li> </ul>
子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児教室や園庭開放、見学会などの開催方法の改善を行い、園に足を運びやすいようにしていきたい。</li> </ul>

## 6. 学校関係者の評価（総評）

- 行事もいろいろ復活していく中で、人数制限や検温、消毒液の設置など、今後も気をつけながら取り組んでいく。
- 園庭開放も回数を増やそうと計画したが、感染状況により、思うように開催が出来なかった。
- コロナに関わらず、色々な感染症の流行の目安（2～3人）が出てきたら保護者に周知するよう対応していく。
- ドライブスルー登降園があるため、この園を選んだ理由のひとつでもあるが、改めて他の保護者との交流の大切さも感じている。
- 保護者同士の交流について、保護者アンケート実施などを行い計画を立てて進めていく。
- 先生たちが、みんな元気で雰囲気良く、自分のクラスだけでなく他のクラスのこともよく見ていると思う。

## 7. 公開保育について

実施日時	令和4年11月22日（火） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属金剛幼稚園
保育者	あやめ2組担当教諭
テーマ	コーディネーショントレーニング
指導助言者	大阪芸術大学芸術学部 初等芸術教育学科 教授
参加者	大阪府保育園・こども園園長、主任、教諭、育友会会長
総評	先生自身が楽しむことで、子どもたちが楽しく取り組むことができることがよく伝わりました。長い時間の運動あそびでしたが、子どもの反応を見ながら関わり、テンポよく進んでいたと思います。今日の保育を見て、スムーズに身体を動かせるようにということを目指していると思いました。運動はことばにもつながっているので子どもの発達にとっても大切です。今回の保育の中には多様な動きの要素が色々含まれていました。